平成27年度小牧市歴史館運営委員会議事録

- 1 開催日時 平成28年3月29日(火) 午前10時から11時35分
- 2 開催場所 小牧市役所本庁舎4階 404会議室
- 3 出席委員
池田洋子 浅井啓介 大藪徹也
西川菊次郎 山内均
- 4 説明のため会議に出席した者
文化振興課長 村田吉隆 文化財係長 浅野友昭
文化財係嘱託 中村麻里
小牧市施設活用協会
庶務課長補佐兼施設係長 林孝憲 主査 清田憲司
- 5 報告
(1) 小牧市歴史館の運営状況について
(2) 小牧市歴史館企画展示について
- 6 議題
(1) 平成28年度小牧市歴史館の企画展示(案)について
(2) (仮称)史跡センター整備計画について
- 7 会議資料
議事次第
小牧市歴史館運営委員会委員名簿
小牧市歴史館の設置及び管理等に関する条例(抜粋)
小牧市歴史館の管理等に関する規則(抜粋)
資料1 小牧市歴史館の運営状況について
資料2 小牧市歴史館の企画展示について
資料3 平成28年度小牧市歴史館の企画展示(案)について
資料4 (仮称)史跡センター展示基本設計 概要版
- 8 会議の傍聴人 なし

(午前10時00分開会)

事務局（浅野文化財係長）

定刻になりましたので、ただ今から平成27年度小牧市歴史館運営委員会を開催いたします。

本日はご多忙のところ、ご出席いただきましてどうもありがとうございます。

この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開するものとしておりますが、本日は傍聴者はありません。なお、議事録につきましては、発言内容、お名前とも、小牧市のホームページ等にて公開しますので、ご承知おきください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第の1として、文化振興課長の村田よりごあいさつを申し上げます。

事務局（村田文化振興課長）あいさつ

おはようございます。文化振興課長の村田と申します。この会自身が最近開催されていなかったのを改めて仕切り直しをさせていただいて、進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。前回は平成25年10月になりますので、そこから数えると指折りということになってしまいますが、深くお詫び申し上げます。そのため、報告事項や議題などにつきましては遡った内容も説明させていただくため、盛りだくさんの内容となっております。中でも6議題の(2)史跡センター。今、堀の内体育施設の跡地に建てようとしておるのですが、それについては詳しく説明をさせていただきたいと思えます。要は史跡センターの展示の部分が多くありますので、歴史館との住み分けであったり、そういったところも出てまいりますので、是非とも忌憚のないご意見をお伺いできればというふうを考えております。よろしく願いいたします。事務の説明も含めてのような形になってしまいましたが、あいさつに代えさせていただきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

事務局（浅野文化財係長）

さきほどの課長のあいさつにもありましたが、歴史館運営委員会は平成25年10月3日以来の開催となります。前回の委員会より引き続き浅井委員、池田委員に委員をお願いし、平成26年4月より大藪委員、平成28年3月16日より西川委員、山内委員に新たに加わっていただきました。委嘱状につきましては、略式にてお席に置かせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。ここで、委員の皆さんにおかれましては、お互いに初対面の方がおありかと思えますので、自己紹介をお願いしたいと思います。

では、席順で池田委員から順にお願いしたいと思いますので、よろしくお願い

いします。

池田委員

池田と申します。よろしくお願いいたします。文化財保護審議会の方からこちらに参っておりますので、またその関係でよろしくお願いいたします。

事務局（浅野文化財係長）

それでは大藪委員お願います。

大藪委員

一色小学校の大藪と申します。市内の校長会の代表ということで参っております。よろしくお願います。

事務局（浅野文化財係長）

浅井委員お願います。

浅井委員

浅井と申します。伝統技術保持者ということで漆をやっておりますが、何卒よろしくお願いいたします。

事務局（浅野文化財係長）

西川委員お願います。

西川委員

西川と申します。今年度から文化財保護審議会にも参加させていただくことになりました。いろいろわからないこともあるかと思いますが、よろしくお願います。

事務局（浅野文化財係長）

山内委員お願います。

山内委員

小牧市観光協会の常務理事をやっております山内と申します。昨年の6月から就任しまして、その前は愛知県観光協会の専務理事であったり、その前は県職員を長くやっておりましたので、若干、文化面はあまり大したことはないですけど、愛知芸術文化センターにいたりですとか、観光行政が長かったですね。観光行政だとかコンベンションですとかそういったものです。で、今回という

ことでもよろしくお願いいたします。歴史館は小牧の観光協会にとってもですね、非常に重要な拠点だというように思いますので、このあり方いかんがものすごく多くのことを生むじゃないですけど、いろいろ随所随所で歴史的な事柄を合わせてやっていただけると。県下三英傑の歴史的な拠点がいっぱいあります。昨日も岡崎でですね、いろんな情報を仕入れてきたんですけど、それから長篠の家康の関係とかそういったことをやっていくことがいいんじゃないかと思えます。長くなりましたが、山内と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（浅野文化財係長）

ありがとうございました。

つづきまして、事務局につきましても紹介をさせていただきます。文化振興課長の村田です。文化財係嘱託の中村でございます。申し遅れましたが、私は文化財係長の浅野と申します。なお、本日は、小牧市歴史館の指定管理者であります小牧市施設活用協会の林補佐、清田主査も出席しております。後ほど、歴史館の運営状況、展示について報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、次第の3「委員長の選出」についてであります。小牧市歴史館運営委員会の委員長におきましては、前任の江尻鎌一氏が後進に道を譲るということで、平成25年3月31日付けで委員を辞任されて以降、不在となっております。平成25年10月3日の会議の折には、委員数が条例に定める5名以内となった段階で委員長を改めて選出することとしておりました。今回2名の委員に加わっていただき、委員数が5名となりましたので、委員長の選出をお願いするものです。お手元の資料にもあります小牧市歴史館の管理等に関する規則第8条に「委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。」とございます。委員長の選出についてどなたかご発言はありましたらお願いします。

大藪委員

お互いに初対面の方が多いということで、委員の互選という形では決めずらいかと思いますので、事務局でどなたか腹案がありましたら、お願いしたいと思えますがいかがでしょうか。

異議なし

事務局（浅野文化財係長）

どうもありがとうございます。

ただ今、大藪委員から事務局（案）はどの提案をいただきましたので、こちらにつきまして事務局からの案をご提案申し上げます。

事務局としましては、委員長は、小牧市文化財保護審議会の会長あるいは、史跡小牧山整備計画策定会議の会長をお願いしております池田委員にお願いしたいと思っております。また、委員長職務代理者につきましては、引き続き浅井委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

異議なし

ありがとうございます。それでは、委員長には池田委員、委員長職務代理者には浅井委員ということでよろしくお願いいたします。池田委員につきましては席の移動をお願いします。

それでは、次第の4「委員長あいさつ」をお願いしたいと思います。池田委員長よろしくお願いいたします。

委員長（池田委員）

急なことで何の準備も出来ていませんが、すみません。歴史館は山の上にあつて、ずっと小牧市を見守る城という形で今まであったのですが、今後もこの小牧市の発展を見守っていただけるという形がとられるとありがたいというふうに思うので皆様方どうぞ歴史館というよりかは小牧山の城みたいなものが、ずっと登ったらそれがあつて、そこに行けば小牧がわかるよみたいな形がとれたらいいなと思っておりますので、今回よろしくお願いいたします。

事務局（浅野文化財係長）

どうもありがとうございました。

それでは、ここからは、池田委員長に議事進行をお願いします。

委員長（池田委員）

それでは、次第の5「報告」に入ります。報告（1）「小牧市歴史館の運営状況について」事務局からの説明を求めます。

事務局（清田主査）

（資料1に基づき報告）

委員長（池田委員）

ありがとうございました。続きまして、報告（2）「小牧市歴史館の企画展示

について」事務局からの説明を求めます。

事務局（清田主査）

（資料2に基づき報告）

委員長（池田委員）

ありがとうございました。以上2点につきまして、何か質問等、発言はありませんか。

山内委員

甲冑の試着なんですけど、これはどなたがやられるのですか。お手伝いされる方とか。

事務局（清田主査）

犬山甲冑制作同好会の方にお願ひして、そのメンバーの方に4～5人来ていただいています。子ども用でしたら着せれるようになりまして、私も手伝いをしております。

山内委員

清須の観光協会の会長さんで、同好会のメンバーで、ダンボール甲冑をやっている人がいる。県下では、豊明を中心にダンボール甲冑の試着の同好会があり、イベントで行っている。犬山が悪いというわけではないですが、いろんな形で甲冑の盛り上がりというものを活用していったらいかがでしょうか。

事務局（清田主査）

歴史館で行っているものは、ダンボールではなく、アルミで精巧に作られています。

委員長（池田委員）

重いですか。

事務局（清田主査）

アルミなので、軽いです。女性の方にも大変人気です。

委員長（池田委員）

甲冑試着会は申込みした方だけですか。

事務局（清田主査）

事前申込みはなしです。

委員長（池田委員）

すごい人数なので大変ですね。

山内委員

何着くらいあるのですか。

事務局（清田主査）

大人2着、子ども4着です。

山内委員

お手伝いする人も相当いますね。試着して写真を撮ってということですね。

委員長（池田委員）

ありがとうございました。

それでは次第の6「議題」にうつります。議題（1）「平成28年度小牧市歴史館の企画展示（案）について」事務局からの説明を求めます。

事務局（清田主査）

（資料3に基づき説明）

委員長（池田委員）

ありがとうございました。何か質問等のある方はいらっしゃいますか。

山内委員

歴史的なものを入れてほしい。今回は発掘調査の企画展があるからいいですが、ツアーを考える際、今何がやっているかというのが重要なポイントである。例えばいろんな形で歴史を掘り起こす。松平から徳川を名乗った時から今年で450年目に当たるそうです。家康が徳川を名乗った時の考え方は、戦いをやめようという、家康はそういう思想の持ち主であったそうで、そこで家康を紐解いていくと、小牧・長久手の戦い、長篠の戦いなどがある。バスツアー会社がポイントポイントで、吉田城や岡崎城などのお城を、武将に関係したところをピックアップしてやって来る場合、歴史館で企画展がやっているPRしやすいと、観光サイドからの発想なのですが思います。小牧・長久手の戦いもいろんな面から掘り起こせば物語がいっぱいできますので、そういったものを年

に一つはやってもらいたいと願望ですが。小牧市観光振興基本計画というシンポジウムがありまして、ボランティアの人たちが言っていたのは、お城の説明もするのですが小牧の城下は産業都市なので、そういった説明もするのだと。小牧山を登っていただいてそういう説明をしながら、それから二つの歴史ですね、信長が作ったということ、小牧・長久手の戦いがあったということ、そこで家康が君臨したというようなことを説明していたものですから、非常にそういう面では歴史的な展示はいいので、また見ていただけるといいなというふうに思います。ポイント的に何周年といった形での誘客の仕方を我々は考えています。たくさん来られるような状態ではありませんが、バスにお金を出して、バス一台来てもらえることによって小牧を広めていく。今のメインは歴史館になる。模擬天守ではあるが、歴史館へ入れば映像などもあって見ていただけるので、いいかと思います。

委員長（池田委員）

ありがとうございました。

鳥たちの展示ですが、鳴き声はどうなんですか。

事務局（清田主査）

鳴き声は集めていません。

委員長（池田委員）

もしも協力いただく先生がお持ちであれば、展示の際に音になるようにセットしておく、子どもたちの自由研究の時に、実際にその声を聞けたというようなこともあるのではと思ったので、一度伺ってみていただいたほうが良いかと思います。

事務局（清田主査）

音は全く記録されていません。写真のみです。

委員長（池田委員）

どこか、インターネットなどから音声をとってもらって加えていただけるといいかと思います。小牧山の中で姿はなかなか見つけられないと思うので、ただ、音は聞こえるかもしれないので、そうしたらもう少し展開できるかなと思います。

山内委員

朝の何時からとか決めて一時間くらい収録するとおもしろいかもしれません

ね。

西川委員

小牧山で現在見られる鳥ということですよ。

小牧山でと考えると、義直が鷹狩に来てますよね。そういったこととか、文化財愛護のつどいで、コジュケイか何か、徳川家が放ってそれをお守りするような劇をやりましたよね。蓬左文庫の中にほんの数行だけ、これは入谷先生から伺ったのだけれども、小牧山に生息する鳥のことで数行だけ記述がある。そのことを題材にしてお話を作られたのですが、江戸時代にはこんな鳥も実はということで、そういったことも探ってこれにプラスすると、演出的なことですよけれども、現在いる鳥でとなると小牧山独自の鳥がいればPRポイントになるけれど、ただ生息するということだけではなく、そこに付加をするものがあるといいかなと思います。協力いただく清水先生は植物なども詳しいので、小牧山ならではの、例えば、たぶの木なんかはめずらしいですよ。小牧山にあるから市の木になっていて、本来海岸よりの植物でありながらもここにある。小牧山に特化した植生みたいなものがあれば、何かこの展示にプラスすることで小牧山をより特色化できて良いかと思います。

委員長（池田委員）

今の樹木のほうもおもしろいかもかもしれませんので、また次の機会にでも企画を考えていただければと思います。ただ、義直の鷹狩とか徳川が放した鳥というのがあるのであれば、蓬左文庫に聞いていただければ教えてくれると思いますので。義直が鷹狩をした場所ですということもおもしろいかもかもしれませんね。

それでは、議題（2）「（仮称）史跡センター整備計画について」事務局からの説明を求めます。

事務局（浅野文化財係長）

（「資料4」に基づき説明）

委員長（池田委員）

ありがとうございました。ではこの件に関しまして、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

平成30年に史跡センターが開館ということですよ。平成29年度までは歴史館での展示ということですか。

事務局（浅野文化財係長）

平成30年にオープンしますので、多少その前に展示するものを持ってきた

りだとか、中身を替えたりということはあろうかと思います。歴史館の展示に関しましても、平成29年に若干ひょっとして抜けてしまっていて足りないものは補う必要があると思いますので、平成30年にオープンした時にはきちんと住み分けが出来ている状態でスタートしたいと考えております。

委員長（池田委員）

そうしたら平成29年度後半にはもうがらっと変わると考えたほうがいいですね。

住み分けの中での意見や、他に史跡センターについて質問があればお答えできるところはお答えいただこうと思いますのでお願いします。

大藪委員

よろしいですか。小学生・中学生が歴史を、実際に目で見て学ぶということで歴史館というのは非常に大事なものでした。小学生にあたっては、小牧の地域を知るということで、上から展望して東西南北を見て小牧の町並みを見ることで、地域の学習にもつながっておりますし、歴史につきましてはここに書いてありますようなことで勉強してまいりました。引き上げてしまう部分がたくさんありますよね、史跡センターに移動してしまう部分が。移動したら、空間をどうされるのかなということですよ。今ある状態が寂れてしまうとよろしくないかなと思いますので、そのあたりはどう考えているのか。要は、移動した分の、どちらかと言えば史跡センターは大人向け、歴史館の方は子ども向けという感じはしないこともないのですが、そのあたりはどうされるのかなということで現在のようなものがあるといいなということは思います。これは大人をイメージしていません。小学生や中学生の、子どものイメージでおります。

委員長（池田委員）

事務局のほうから何か。

事務局（浅野文化財係長）

基本設計の段階ですので、まだ細かくは書いておりませんが、史跡センターを整備するにあたって歴史館から史跡センターに持ってくるものにつきましては、青字で書いてあるものということで、墨書石垣石材それから同じく1階東側に置いてあります復元模型というものの二点を降ろしてこようと思っております。その他にも共通するものということで、例えば出土遺物等々もそれぞれに置くということを考えておりますけれども、出土遺物につきましては、小牧山からの出土遺物というのはほとんどないのですが、城下町におきましてはすごいたくさん量の、それぞれ鍛冶屋関連のものですとかそういったもの

もありますので、片方がすごく寂しくて片方がすごくいっぱいというようなことにはならないと思います。空間的にもですね、ご存知かと思いますがいっぱい一ぱいのところがありますので、なくなったら当然空間が空きますので補うことを考えておりますけれども、それほど、展示が一部移ったからといってガランとしてしまうだとかいうようなことはないのかと思いますし、歴史館の中で今小牧山を紹介しているところは、歴史館に入って1階の東側と2階に小牧・長久手の合戦コーナーがありますけれども、映像につきましてはそのまま生かしていきますので、大きく変わるのは1階の東側の小牧山コーナーのところ、若干展示物を下に降ろしたりというようなことがあります、心配されるようなガランとしてしまうとか全然機能していないということはないかと思えます。史跡センターにつきましては、小中学生メインということで展示されている解説文ですとか、極力子ども向けにわかりやすく、体験して学んでいただけるようなものにしていきたいと思っておりますけれども、ただそればかりでは一般の大人の方がつまらないというようなこともありますので、今後実施設計の中でどうしていくのか、二つ解説文を作るのかだとか、一つなんだけれどもそれは子ども向けにしてしまうとか、そういったことも含めていきたいと思えますが、基本的には史跡センターは、小中学生の方でも十分楽しんで小牧山を理解していただける施設にしようと考えています。歴史館につきましては、今見ていただくと、難しい文章で大人が見てもわかりにくいなというところがあるのですが、全面リニューアルすると結構時間がかかりますので、今後検討していきたいと考えております。

大藪委員

空いたスペースを上手に使って、小牧山の歴史館に来たらそこで歴史の勉強ができるだとか、講師の先生がいて、学校ではなくてそこで勉強ができるというスペースにしてもいいのかなということをおもいました。今おっしゃったようにごちゃごちゃしているものを分けていくということで、ある程度ごちゃごちゃ感はなくなると。そして、スペースがもしあればそういうスペースにしてもいいのかなと。今現地に行ってそこで学ぶということがすごく大事なことだと思いますので、そういうことも提案していきたいなと思いましたので質問させていただきました。ありがとうございます。

委員長（池田委員）

そうしますと、小牧山の歴史館の方では、歴史を学習するスペースをそこで設けたり、歴史を基本的には見せていくという形というふうに考えていいんですよね。

大藪委員

小牧の歴史ということですよ。いいと思います。

委員長（池田委員）

他にありますか。

西川委員

はい。史跡センターはあくまで史跡にスポットを当てていると思う。本来は家康が陣を張ったということで指定を受けているから、戦国が中心ということだよ。それに当然、信長の城ということも加味して史跡センターはグッと的を絞って。ただ新しい技術を駆使するから入れば楽しいということで、こちらの方が脚光を浴びると思う。心配なのは、ここに行くと小牧山のいろんなことがわかって楽しいから下で満足ということになると、上は登らなくちゃいけないということ、メインは下だということになると、いかに人を存続させるかということを考えなきゃならないと思う。かといって、冗談で言っている上までずっと上がる何かということは史跡だから難しいのだけれども、それは別として、上に行けば展望ができる、しかも城下町を一望できるだとか考えると本当は学芸員を一人置くなんてことは多分子算的にも厳しいと思う。だから、文化財系のメンバーが、今日はこういう団体が来るから臨時に中村さんが行って概略を解説するだとかそんなようなことをしてでも、上がる価値があるということなんらかの形でつけていかないとだんだん上は廃っていくという心配はある。上に上がれば小牧の長い歴史をトータルで把握できると、例えば元町があって、そこから江戸時代の初期に東の今の小牧の町が作られたというようなことも見ながら同時に分かるということがいいかなと思う。それからいろんな出土品が展示してあるよね。そういったものをコンパクトに説明してあげて、ああそうかというようなことを子どもたちに伝えるような。遠足の時は子どもは無料ですか。

事務局（浅野文化財係長）

はい。途中ですが、お話させていただきます。まず、史跡センターの運営自体はこれからどういう形でやっていくのかというところがまだわからないのですが、今考えているのは、観光協会のガイドボランティアの方あるいはいくつかのボランティア団体の方がお見えになりますけれども、そういった方の待機場所になるのか、そこが事務所となるのかわかりませんが、そういった形にしてお客さんが来られたらセンターの中の説明もそうですけれども、一緒に山の中を歩きましょうとかいうような場所にしたいなという計画は持っております。また、山頂の歴史館周辺ですけれども、発掘調査をしまして、三段

目の石垣が出たというようなことがあるのですけれども、具体的にいつというのはないのですが、史跡整備のための調査をしておりますので、いずれかはどのような形になるかはわかりませんが、石垣を見せたりだとか整備をしていく予定をしております。山頂では、本来あった三段の石垣をぐるっと組むことはできないので、おそらく一部分の見せ方だとかになると思います。なので、史跡センターの方では二段にはなりますが、実物大の石垣を作ったんだよと。本物は上にあるんだよと、というような紹介をしながら実際に山頂に行っていて、本物の石垣を見ていただくということと、先ほど西川委員が言われたような歴史館4階からの眺望ですね。下で城下町の説明を聞いた後で、上に行ってみようかと。南のこの部分、どこどこまでが城下町だったんだよというような使い方が出来るのかなというようなことで、下と上とが連携した形で、下で学んで上に行ってもらえるような取り組みだとか仕組みとこののを今後考えていきたいなというふうに考えています。

西川委員

いいですか。樹木が、築城から450年経っているから生い茂って、上からの眺望もだんだん下部が見にくくなっているよね。下から見ても、ふれあいセンターへ毎月行っている中で、だんだん歴史館が見えなくなるんだろうなと思っていて今見えなくなりました。だんだん茂ってきたから。小牧山の山頂まで登ることや小牧山そのものが、小牧市の一番のPRポイントだと思う。だから、上に上がると、城下町がこんな風にだとか、ある程度具体的に確認できるようなスタイルにするような、植栽の変更というのはいけないのかな。

事務局（浅野文化財係長）

山頂部はですね、以前に比べるとだいぶ切ってすっきりした。450年のイベントの時に遠くからお城が見えるというところで、だいぶ切ったと思うんですね。先ほども言いました山頂部の史跡整備をする中でもある程度は植栽のほうも考えてやっていきますので、伐採をしたりだとかはあると思います。ただ闇雲に切ってしまうと雨が直接当たって遺構が傷むというようなこともありますので、全て丸裸にして上を見せるというようなことは出来ないと思いますね。山の中につきまして、いろんな樹木が生い茂っていますけれども、別の課の方でみどりの管理計画を作っておりますので、計画的に切ったりだとか新しいものを植えたりだとかということもやっていますので、だいぶ変わってくるかと思いますが、闇雲に切ってしまうということは出来ないかなと。また、史跡センターは歴史がメインとなっておりますが、自然や動物の紹介の方もする施設となっていますので、そういった変遷ですとかなんらかの形で紹介できたらいいなと思っています。

浅井委員

いいですか。今のに付随してすみません。小牧山の植生というものがあって、史跡センターの完成の図面の中に、あまり異質なものを置かないようにしていただきたいなと思います。よくあるガーデニングのものが入っていたりというのはちょっとまずいかなと思います。できれば小牧山にあった植生を再現するような、出来る範囲だと思いますが、するといいのかなということを感じました。以上です。すみません。

事務局（浅野文化財係長）

植生につきましても、例えば木だとか、外来種であったりとか、このお城のあった当時になかったような植栽というのは出来ないものなんです。ただ、下草ですとかそういうものに関しましては、部分的に、計画の中で鑑賞していただくエリアも当然必要だと思いますので、そういったものも作った中で、文化庁と協議をしながら現状変更ということもありますので行っていきますので、そんなめちゃくちゃなお花畑が出来るよということはないのですけれども、自然を目的に来られた方が当然あるものですから、そういう方を楽しませるような部分もあるのですが、基本的には外来種は入れないだとか、例えば土塁の部分ですね、土塁壁面を守るということもありますけれども、笹を植えたりということでのただの芝生の山にはならないということは考えております。

委員長（池田委員）

外来種について、何回か前の史跡小牧山整備計画の会議の時に、そういったものをとっちゃうといった話があったのですが、全部とっちゃたらまずいから矢竹は残しましょうみたいなのはあったかと思いますが、そういうことで決まったことはどこかで発表されましたでしょうか。

事務局（浅野文化財係長）

詳細については、実施設計の中で詰めていくんですけども、まだ皆さんに公表されているのは基本計画であったり基本構想であったりそういう段階なので、具体的にここに何の植物を植えますよというものはまだ公表されていないです。

ここに何の花を植えますよということでだめだということもなかなかやれないものですから、少なくとも文化庁と協議しながら、これならいいよというものを植えていくということになろうかと思います。

委員長（池田委員）

はい、ということです。今流行りのものが植わってるということはあまりないということで考えてよろしいでしょうか。

事務局（村田文化振興課長）

ソメイヨシノは植えることはできないけれど、薄墨桜などの昔の桜であれば植えることが可能であるよと考えていただければいいかもしれません。

浅井委員

それは文化庁の括りで、ですか。

事務局（村田文化振興課長）

そうです。

委員長（池田委員）

ソメイヨシノは明治以降なので、小牧山はそれより前にあるので、絶対ないんですよ。なので、大島桜だとか山桜だとかが植わっているんじゃないかなど。それは実施設計の時に出てくると思いますので。

山内委員

歴史館へ登る醍醐味は、なぜ小牧山に信長が城を作ったかということなんです。観光客はそこへ登るんですよ、必ず。小学校、中学校対象に教育旅行でやってくる。なぜ信長がここに注目したか。清須から来て岐阜を目指していく。小牧で様子を見ながら犬山城を攻めながら、どんどん京都を目指していくというこの醍醐味をどう歴史館の中で表現するか。史跡センターの中で戦国の小牧をやってもいいのですが、もう一つは、家康の小牧・長久手の合戦の際にどちらに陣をとることがいかに有利なのかといった戦略をそこで学んでほしい。そのために皆さんは上がってくるんですよ。多分、ほとんどの方は史跡センターだけでさようならとは思いますが、我々はそのところを強く要望したいですね。もちろん郷土資料館的な意味合いもいいんですけども、産業が発達したのが見れるからいいんですけども、この二つを何かに入れてほしいなど。一つは合戦があるからいいんですけども、もう一つはなぜ信長がここに注目したかということを何か表現していただけると説明しやすいですよ。上は模擬天守ですが、下には本物があります。本物については、史跡センターでじっくり見てくださーいというような説明を、そして小牧山に登ってくださーいといった説明をしてほしいですね。そういった住み分けがはっきりするといいですよ。総合的にバランス良くやるというのはあまり観光にはうけがよくないので。これも要望です。観光サイドからいうと、撮影ポイントが欲し

いですよね。しゃちほこはあるんですけど、なかなか写真は撮れないんですよ。ドローンか何かじゃないと撮れない。小牧山の四方八方の景観とかですね、犬山城に向かって写真が撮れるといったふうに、可能かどうかわかりませんが、これも要望ですね。これは切に皆さんから要望されることです。ここは文化財なのでという説明はしてるんですけどね。例えば撮影の台を置くだとかができましたら、難しいかもわかりませんがお願いします。

委員長（池田委員）

他にはないでしょうか。

西川委員

歴史館の中に、近現代のことってあまりないよね。例えば、戦争史跡的な要素なんかはちょこっと残っていて、そういうのも入れられないかなど。歴史館なら古代から現代まであっていいと思うから、もっと言えば、歴史館が出来る前に展望台があって市民の方が憩いの場にしていたよね。小牧山そのものの現代までのものも加えればと。これは子どもの学習にということとは違うかもしれないけれども、ここで小牧の全体的な歴史とプラス小牧山のおおざっぱな歴史がわかるようなという中に、あれだけ防空壕がたくさん作ってあるということはただの避難場所以上の意図があったから、そういうものも入れてはと思います。あと、昭和2年の陸軍大演習で陛下が来たということも含めて、長い歴史の一コマとして紹介してもいいのかと。実際生きている人が、そんなこともあったねとちょっと思い出すような材料にしてというか。

大藪委員

よろしいですか。関連ですが、先ほど山内委員から言われたことなんですけれども、小牧の観光スポットということで、歴史館を含めた史跡センターを整備されるなら、なぜ織田信長が石垣のある城を作ったのかという片鱗がどこかから見えないかなというふうに思うんですよ。予算的なことやなんやあるんですけど、復元模型がちょろっとできるだけですよ。できれば大手道から石垣が見えるような工夫をしてもらえると。山内委員が言われたことがわかるんですよ。今のままだと、生い茂って見えないじゃないですか。一箇所でもいいから見えるようにして、これがすばらしい石垣のお城なんだと、信長が威厳を示すために石垣の城、城下町を作ろうとしたんだと。たとえ4年間かもしれない、戦国時代の城郭の原点がここにあったのだということが見えるような、視覚に訴えるような点でしょうか。お金はものすごくかかるとは思うんですが、そういう部分がどこかにちらっと見えないかと、要望、お願いとしてお話をさせていただきます。

事務局（浅野文化財係長）

国指定史跡となると、簡単に、切って道を作るだとか眺望のためにここから見えるところは全部切るよということはなかなかできないんです。整備も順々に今計画を進めています。どこまでするかはわかりませんが、山頂部分の整備ということで発掘調査を行っています。全部は石垣を復元できないとは思いますが、部分的にということは可能かと思うんですが、ただそこだけだと遠くから見て、あっ、石垣があるといったふうには見れないかなと思いますし、なかなか難しいところではありますが、視覚に訴えるところは大事だと思います。ただ、どうしても出来ないものについては史跡センターの方で、本物はできないけれども本来はこうだったんだよというような映像ですとか模型などで紹介しながら現実を見ていただくということにどうしてもなってしまうのかなというところがあります。できれば撮影スポットだとか、観光的な目から見れば当然必要なんですけども、やはり国指定史跡という中で、出来るものと出来ないものがはっきりしていますので、本来なかったもの、江戸時代に撮影スポットはなかったでしょとか、当然のことであって、そういったものは当然作れないということになります。難しいところではありますが、観光という視点も今後入れながら整備もしていけたらなと思っております。以上です。

事務局（村田文化振興課長）

少し良いですか。今浅野が言ったように、実際外から見ていただくのが難しいという部分を皆さんからご意見をいただいている。そういう意味を込めて、ガイダンス施設、史跡センターを作っていきたいなど。例えば、資料の5番のところに土の城から石の城へというところで、石垣の絵が描いてあるのですが、この絵で見てしまうと単なる壁に石垣の模型を作るのかというふうに見えてしまうのですが、実はかなり先進的な技術を使っていて、石垣を再現するというふうに考えております。簡単に申し上げますと、三つの面、左側に写真がありますよね。石垣の絵の横に写真があり、真ん中に石垣があり、その横に石垣の断面図があるのですが、これが連動した形でまず見ることが出来る。石垣が二段あるのですが、本当は三段の石垣が出来るとよかったですのですが、史跡の中ということで二段しか作れないという、最大高さ6mという制限が出てきましたので6mでやります。実際、ここに石垣の絵が出ているんですが、これから実施設設計をしていく中で、変わっていくこともあるんですが、真っ白な、少しグレーがかっているかもしれませんが、石の形の模型がここに、擬岩というのですか、入るのですが、それにプロジェクションマッピングのような投影技術を使って、石垣が組み上がっていったりだとか、石垣の色を付けて石垣を見せていくとか、そういった最新技術を使って見せていくことで、立体感であったり

だとか更新性であったり、そういったことを高めていくというものをここの石垣で、史跡センターの一番のメインとなってくるのですが、考えています。どうしても史跡という制約の中で見る事が出来ないものは、いわゆる偽物ではあるのですが、偽物で体感、体験していただく。小中学生が対象にはなってくるのですが、ミソのところは小・中学生の、中学生の部分がおそらく大人が見ても中学生の部分は十分楽しめる。ただ、表現的には例えば土塁というのはふりがながふってあり、土塁とはなんぞやという説明がきちんとしてあるという、そういうところは小学生でも理解できるというところでイメージをした中で、体験部分でも小学生の低学年からでも積み木で何かをするであったり、そういったところからの取っ掛かりがあったり、中学生のレベルまで行けば、大人が見ても十分理解して帰っていくことが出来る。しかも、偽物しかここでは、もちろん展示物は本物なのですが、石垣の偽物を見ていただいて、是非とも本物は上へという誘導をかけるというそういう意味で、しっかり石垣を表していきたいなと考えておりますので、補足をさせていただきました。

浅井委員

駐車場というのはどこになるのですか。小牧山の。

事務局（浅野文化財係長）

駐車場は史跡の中には作れません。今、小牧山の駐車場はどこですかと聞かれたら、警察の横のところですね。小牧山北駐車場がありますので、そちらを紹介しています。土日に関しましては、市役所は閉庁しておりますので、使っただけであればということで案内をしています。今後、史跡センターが出来ると多くの方が来られるということもありまして、北もそんなに台数があるわけではないものですから、市役所の方も使えるような調整を中でやっていきたいと思っておりますが、基本的には国指定史跡の中に、本来なかったものというのは、いくら便宜を図るといってもですね、出来ないものですから、史跡の中には作らないということを考えております。以上です。

浅井委員

やはり、大型のバスとか来ると、福祉センターとかいいところに停めれるといいかなと。僕ら小さい頃から小牧にいまして、小牧がテレビで紹介される時は小牧山が出るんですよね。そんなにパワーがあるというのは、やはり持っているんですよね。それも心配ないと思う、小牧山に関しては。ただ、今言う数字が全てになってしまっているから、人数がどれだけ入りました、どういう効果がありましたということをおっしゃられるということは、今の世の中しようがないところなんですけれども、小牧山に関しては、見るだけで帰ってきた

というふうに思える場所なんですよね。すごい力だなと。そういう力のある場所だと思っています。西川先生がおっしゃられた現代の小牧。現代も昔も要所だと思うんですよ。ここから見ると高速道路が走っている、犬山城があちにある、名古屋城がこちにあるといったような要所なんですよね。そういうのも入れていただく。そして、第二次世界大戦のことも入れたりだとか、もう一度再確認をする。地元の人。そういう場所でありたいなというところもあります。僕は小牧原小学校でした。小牧山を歌っているんですよ。小牧の山、お城が建っていますが、あれは偽物かもしれませんけれども、そういう場所とされているところなんです。小牧山全体が盛り上がって来る。10年前とは全然違う話になっていて、前、この会議では、何人来ました、こういう企画をやりましますといったそういう話でしたけど、今は夢がある。小牧山はこうなるんだと。人間がやることだから失敗することもあるんですけど、そこに税金がかかるからどうこうと言われる世界ですけど、それを言ってちゃ始まらないことで、とりあえずやってみて、城下町が出来ればいいなとかお城が昔の形になればいいなとか夢を持ちながら、新しい技術を入れて見せるということに期待しております。観光協会の方もいらっしゃるので、出来ればお土産場とか。小牧山でコーヒーが飲めると一番いいと思うんですが、それは文化庁の宮田亮平先生が許すかどうかわかりませんが、そんなとんでもないことをやりながら、役所が出来なければ僕らがゲリラ的にやってしまうとかね。で、怒られたらすみませんみたいなね。それくらいの力で小牧山を盛り上げたいなと思っております。アットランダムですみません。失礼しました。

委員長（池田委員）

他にありませんか。

山内委員

そうですね。観光地はトイレとお土産ですね。なんとか実現するようにお願いします。史跡センターに休憩場所はあるわけでしょう。

事務局（村田文化振興課長）

ミーティングスペースが。

山内委員

小中学生が昼食をとれるわけですよね。自分の持っていったものが食べれるということですよね。

西川委員

商業施設はだめだと。

山内委員

ですよね。

委員長（池田委員）

私も一つ言いたいのですが、今いろいろご意見があった中に、撮影スポットではないんですけど、四方向見ることが出来ますよね、上まで上がると。そのところに、フレームみたいなものを立てて見ると、そこから昔の城下町が見られると。そういう装置みたいなものがあると。普段は何もないのですが、下敷きでも何でも結構ですので、そういうのがあると随分違うと思うので、なくなるといけません。そういうものが欲しいなど。皆さん上まで上がって、ここから何もなかったわけですから、地図が前、ラピオで発表されていたのですが、昔の地図というのが。小牧山がぽつんとあるだけで何もない。ずっと畑ですよ。田んぼという状態のところから名古屋が見えて、熱田が見えてと、それは江戸時代になってしまうのですが、最初は熱田しか見えませんので、熱田まで見ると。そういうような形で、時代ごとに見えるものとか、置いていただけると、小牧市内の方は、山は昔からあったものですから、平安時代はこんなものが見えたんだよとか、鎌倉時代には、鎌倉街道のところのこういった関係のものがあるんだよとか、そういうものがわかるものを、実際に今見える姿と過去の姿を重ねて見えるようなものが一つ欲しいということをする。ここは明らかに小牧市の歴史を語る歴史館というふうになっていまして、下は完全に小牧山そのものを、信長がどうした、家康がどうしたというのが下の住み分けだと思えますよね。小牧という位地が信長にとって、どうしてお城を作らなければならなかったのか。戦略上のものですから、やはり見据えていたのは京都ですよ。ここはいるけれど、上はいらなないんです。上は昔の小牧はどういうものだったのかというのがわかる。西川先生が大事だとおっしゃったのが、戦時下というものを日本は消しております。名古屋市博物館の中で、戦争中にどういう状態だったかということは消す方向で進んでいて、作らないんですね。なぜ名古屋があんなに空襲を受けたのかといたら、その理由がわからない、市民はわからない。昔から三大都市だったからと言っているけれど、いかに軍需工場があったかということなんですよ。私わからないのですが、西川先生、小牧は爆弾は落ちたんですか。

西川委員

そういうのは数少ないですね。

委員長（池田委員）

ないですよ。つまり戦争中には、小牧山に防空壕を掘ったのは、あそこに何かを埋めたいわけですよ。だから何のために防空壕を掘ったのか、たくさん防空壕があったんだよと、軍需工場があったというようなことを、やっぱり子ども達には伝えなきゃいけないことだなと思うんですよ。小牧工場でしたか、そういうものも出来ていたかもしれませんが、そういうものも隠さないで、出してあげてそういうのも勉強していく。戦争になったらこういうものも出来たんだよとか、学習の中で平和ってどんなに大事だとかそういうこと教えていかないといけないと思うんですよ。小牧だって、戦争中に何もなかったというわけではなかったということを伝える。そういうものがあったでもいいんじゃないかと。戦争反対とかそういうことではなく、市民生活までも襲ってくるのが戦争なんだと、そういうことが小牧も関係なかったわけじゃないんだよということを出していただけたらありがたいと思います。それは観光には関係ないかもしれませんが、それでも来た人が小牧でもこんなことがあったのと思ってもらえる意外性でおもしろいかなと思っています。

他にはないでしょうか。

浅井委員

今SNSという、フェイスブックだとかツイッターもろもろあるんですけども、思わぬものが目に入って、それが人気になるということがあるので。犬山の城下町で、ある企画があったんですが実現はしなかったのですが、変わった銅像を建てようとお参りすると願いが叶うというものもありました。見えないものを逆転にとるといった手もあるのかなと。で、つぶやいてもらう。役所の方は必ず一人一つつぶやきしてもらって、ということをやってもらうと認知度が高まるかなと思っています。何にしる難しいですよ。入口もわからないし、建っているものも違うものだしというのが前提だし、網掛けがいっぱいかったお山ですので、難しいことだと思いますけれども、期待しております。

事務局（村田文化振興課長）

昨年、小牧山専用フェイスブックを立ち上げまして、イベント情報であったり、今日の発掘状況であったり、今日の桜の写真を撮って、皆さん来てねというお話であったり、そういうことを始めています。450年記念事業の頃ですから、平成25年の頃からそういうフェイスブックであったりツイッターであったり、いろんな部署で力を入れてやっていくようになりました。その一連の流れとして、小牧山課としてもフェイスブックを持ってやっています。ただ、フェイスブックも、見ている方は全体の1割かもしれないので、広報を見ている人が6割、フェイスブックが1割、ラインが1割、ツイッターが1割という

ことであれば、いろんなツールを今後、いろんな形でやっていくことを考えていかなきゃいけないなど。それぞれ1割ずつを足して、100には絶対ならないでしょけれども、60なり80なりになるような情報発信という部分をしっかり考えていかなきゃなと思って、フェイスブックを立ち上げて、更新は大変なのですが、やっています。

浅井委員

うちも萌えキャラが出来まして、それがフェイスブックなりツイッター上でつぶやいています。全てを連動していくみたいですが、ある大学生がチームを組んでやっているものにのったのですが、フェイスブックだけじゃだめらしいです。僕知らなかったのですが、ツイッターもあり、インスタグラムも。それをホームページにいかにつなげるか、うちの場合、漆器屋なんて漆器にラーメンを載せた写真をどこかで出して、詳しいレシピをホームページにあげるとか、とにかく面で推していくという戦略らしいです。詳しくはお話は出来ませんが、無料でやれる手は尽くすべきだなとは思いました。

山内委員

4月1日からさくらまつりで、デジタル写真館というものをやっております、つぼみの状態の写真から咲き始めましたというようなことをやっているんですけど、なかなか拡がり感がないんですよ。これを繰り返し繰り返し行うことが重要なんでしょうね。立ち上げたらといってわっとくるわけではないんで。ツイッターもやっていますがね、観光協会の方では、どんどんやってもらうといいかもしれません。

委員長（池田委員）

ホームページもあって、フェイスブックもあって、ゆるキャラもいましたよね。

事務局（村田文化振興課長）

マスコットキャラクターのこまき山は、うちというよりは秘書政策の方で持っています。

委員長（池田委員）

そういうのも出してあげたらいいんじゃないですかね。

では他に、小牧山の歴史館としてどういうふう to 存在意義を見せるのかということにつきましては、以上のようなご意見でとりあえずはよろしいですか。またありましたら、直接お願いします。

それでは、本日の議題の審議は終了しました。その他とありますが、何もな
いようでしたら事務局にお返ししたいと思います。

事務局（浅野文化財係長）

本日いただきましたご意見を、今後の歴史館あるいは史跡センターの展示の
方に活かしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日はあ
りがとうございました。これをもちまして、平成27年度小牧市歴史館運営委
員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

（午前11時35分閉会）